

実施計画事業名		林業従事者等支援事業		評価対象年度	平成 23 年度			
評価担当部署		建設産業部 農政課		課長(主幹)名	相馬 義則			
総合計画体系	分野	5	産業振興					
	政策	1	自然を活用した産業の体質強化					
	施策	3	林業の振興を図ります					
	関連施策							
現状と課題	森林の多目的機能の発揮や適正な森林整備の推進を図る必要があり、森林所有者に対して、森林施行の実施に係る現況調査や作業道等の整備を支援する。							
目的	森林の見直しや森林の現状を把握し、適正な施行計画を立て整備する。							
施策5ヶ年開	関係機関と連携し、森林所有者などに対して各種指導や施業の実施支援を促進します。							
成果指標	名称		単位		22年度	23年度	25年度	
	林業の従事者数		人	目標	34	34	34	
説明	森林組合の把握による数			実績	34	34		
活動指標	名称		単位		22年度	23年度	25年度	
	森林整備を進めるための補助金総額		千円	目標	21,067	21,067	21,067	
	説明			実績	31,239	29,834		
	助成を行った森林所有者数		件	目標	5	5	5	
	説明	組合及び団体数		実績	5	12		
				目標	-	-	-	
	説明			実績				
				目標	-	-	-	
説明			実績					
事業費の実績		単位	22年度 (決算)	23年度 (評価年度決算見込)	24年度 (予算)	備考		
	直接事業費(A)		千円	31,239	30,132	23,624		
	国庫支出金		千円	0	0	5,600		
	道支出金		千円	23,112	16,882	10,419		
	起債		千円	0	0	0		
	その他		千円	0	0	0		
	一般財源		千円	8,127	13,250	7,605		
	この事業にかかる職員数		人/年	0.35	0.40	0.40		
	人件費(B)		千円	2,377	2,782	2,782		
計(A+B)		千円	33,616	32,914	26,406			
状況変化	実施計画当初(平成21年～)からの状況変化 国は、平成21年11月に、10年後の木材自給率50%を目標に、施業集約化、国産材の利用拡大に向けた取組を行う「森林・林業再生プラン」を示した。							

【1次評価】

成 果	成果指標の単年度の目標値は達成できたか(単年度の目標値がない場合は、長期的な目標値を達成できそうか予測)
	a a 目標達成 b ほぼ目標どおり c 目標達成できず(目標値と大きな差がある) <cの場合は、なぜかを分析して記入する>
細 事 業 の 構 成 ・ 進 め 方	細事業の改廃や新規細事業の必要性はないか
	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
コ ス ト 効 率	各細事業の進め方について、市民との協働、他団体等との役割分担の見直し、環境への配慮など、改善の必要性はないか
	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総 合 評 価	無駄なコストが発生していないか、投入した予算や人員に見合った効果が得られているか
	a a 問題なし b 改善の余地がある <bの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総 合 評 価	A 概ね問題なし <A~C判定を受けての今後の方針、問題点に対する改善策などを記入する> 平成23年度は、林齢45年生以下の人工林を対象に民有林2,900haで作業路網の改良事業を実施したことで、森林整備の推進が図られ、森林の有する多面的機能が確保された。また、民有林50haで針葉樹84,200本の造林を行い、針葉樹と広葉樹が入り混じった「ふるさとの山」の造成推進を図った。「森林・林業再生プラン」に基づく具体的な施策が示されたことから、関係団体等と協議を行い本市の森林整備計画(～平成33年度)の見直しを行った。

【2次評価】

成 果	a	細事業の構成	a	細事業の進め方	a	コスト効率	a
総 合 評 価	A 概ね問題なし <2次評価者の視点からコメントを記入する> 1次評価のとおりとする。						

【内部評価委員会】

意 見	
--------	--